



取材に応じる胎児性水俣病患者の坂本しのぶさん  
17日、熊本県水俣市

# 水俣病は終わっていない

## 公式確認70年 胎児性患者・坂本さん

「公害の原点」とされる水俣病の公式確認から5月1日で70年となる。母親のおなかの中でメチル水銀の影響を受けた胎児性患者の坂本しのぶさん(69)は、水俣病が公式確認された1956年に生まれ、7月に70歳になる。「何遍も言いたくはないが、国も県も、言わないと変わらない」。加

### 「自分が話せなくなっても別のの人に」

齢により歩行障害は悪化し、車いすが欠かせなくなつたが、今も続く深刻な被害を、身をもって訴え続けている。水俣病の問題は終わっていない。

熊本県水俣市で生まれ、患者と認定されたのは6歳の時。障害の影響で歩き方にぎこちなさがあった。小学生時代は月曜の全校集会に移動する際、同級生らに歩き方をまねられるのが嫌で「日曜の夜は泣いてい

た」。他の人と同じように働きたいと願い、20代は和紙の紙すき工場に勤めた。子どもが大好きだったものの、徐々に介助や歩行器なしで歩くことが難しくなり、保育士になる夢はついで

た。転機は、30代だった87年に訪れたベトナムでの体験だ。ベトナム戦争で使われた枯れ葉剤の影響とみられる結合双生児の「ベトちゃんドクちゃん」と交流した。面会した病院では、同様の

の影で亡くなったとみられる胎児が医療標本になっていた。有毒な化学物質の被害を受けたのは自分たちと同じだと思い、涙が流れた。

人生を狂わす被害を自分で話したいと考えるようになり、学校などでの講演の誘いに積極的に応じ始めた。60代になり、スイスで2017年であった「水銀



水俣病 熊本県水俣市に面した水俣湾を中心とする不知火海(しらぬいかい) 八代海の汚染された魚介類を食べたことで起きる中毒性の疾患。原因物質はメチル水銀で、チッソ水俣工場の排水に含まれていた。汚染された魚や貝などを食べた住民らの神経系が損傷し、手足のしびれや感覚障害、視野狭窄(きょうさく)などの症状をもたらした。根本的な治療法は見つかっていない。漁業などは打撃を受け、移住した人も多い。国は1968年に公害と認めた。新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくと並ぶ四大公害病の一つ。

周囲から「子どもと接するようないい感じ」で話しかけられるなど「変わったもの」として扱われ、何度も悔しい思いをした。一方、経験者を伝えるため訪れた海外では親切にしてもらったことが多く「同じ人として見られていると感じた」と話す。

「70年たっても何も終わっていない」。同様の症状に苦しみ、救済を求めて裁判を続ける同世代の仲間が今も多くいる。言語障害でうまく伝えられないこともあるが、「自分が話せなくなっても別の人がまたその話をしてほしい」と願う。「私が元気なうちは訴え続けたい」。被害や教訓を後世に伝えるため、生涯をささげる覚悟だ。

この記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 四大公害病の名称を4つ書きましょう。

- [ ]
- [ ]
- [ ]
- [ ]

2 [ ]にあてはまる語句を本文中から抜き出して書きましょう。

- ・坂本しのぶさんは、水俣病が公式確認された[①]年に生まれ、[②]歳のときに患者認定された。水俣病の原因となった物質は[③]である。
- ・坂本さんは周囲から[④] ]として扱われ、何度も悔しい思いをしたが、海外では[⑤] ]と感じたという。

3 坂本さんが今も続けていることは何でしょうか。[ ]に当てはまる語句を本文中から抜き出して書きましょう。

水俣病の[①] ]や[②] ]を後世に語り伝えること

